

## 第1回当別町総合計画審議会要旨

- 1 日 時 令和元年8月7日(水) 15時00分から16時40分
- 2 場 所 当別町役場 1階大会議室
- 3 出席委員 別添名簿のとおり
- 4 町出席者 事務局：江口部長、長谷川課長、石原係長、井田主任、寺田主事
- 5 傍聴者 1名
- 6 審議会要旨

### (1) 当別町長挨拶

お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。第5次総合計画の策定後10年が経過し、新たな総合計画の策定作業が始まるわけであり、総合計画とは別にまち・ひと・しごと創生総合戦略がありまして、これは5年の計画となっており、総合戦略も見直しを行うこととなります。この二つは極めて関連が深いものであり、総合計画の策定をするということでお集まりいただいておりますが、総合戦略の策定についてもお知恵をいただくことになろうかと思っております。総合計画はまちのバイブルでありますので、総合計画をベースにして、まちの発展を進めていくこととなります。どうかご協力よろしくお願ひします。総合戦略において、道の駅は40万人を想定しておりましたが、80万人の方に訪れていただいております。エネルギー関連についても、二酸化炭素の削減量をKPIに掲げておりましたが、大幅に上回っております。街灯のLED化も8%を目標としておりましたが、55%くらいまで進んできております。医療大学生の町内居住者数も700人ほどしか居住していませんでしたが、現在は900人を超えております。観光の入込客数はもともと40万人ほどしかなかったのですが、道の駅効果があり117万人まで増えているところであります。転出者数も900人を超えていましたが、現在は700人の後半まで抑制できています。5年間で少しずつではありますが、まちの状態は進展しているのではないかと自負しております。ただ、これは目標のごく一部であり、これからがまちづくりをしっかりと進めていく時でありますので、どうか皆様の知恵をふんだんにいれていただいて、次の10年につなげていきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひいたします。

### (2) 委員紹介

委員名簿の順に、江口部長より紹介。

### (3) 会長及び副会長の選出

事務局より提案、承認により決定。 → 会長 黒澤委員 副会長 高橋委員

### (4) 会長挨拶

会長にご指名いただきました北海道医療大学で副学長をしております黒澤でございます。よろしくお願ひいたします。1975年に本大学が開設され、その翌年から大学に勤務しており、今年で43年目になります。第5次総合計画策定の際に、審議会

の会長が元学長であり、こういったご縁がありまして、審議会の会長を務めさせていただくことになりましたので、よろしく願いいたします。本審議会では、令和2年度を始期とする総合計画の策定に関する審議を行ったり、ご意見をいただくこととなります。検証をしつつ、時代に即した新たな計画の策定の一部を担うことになるかと思えます。今後の当別町の発展について、大きく関係する重要な事項となりますので、委員の皆様とできる限りのことをやっていこうと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

(議題)

(5) 当別町第5次総合計画及び当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

**別冊** ～長谷川課長説明

(古城委員)

総合戦略のK P Iについて、先ほど町長からお話がありましたが、厳しい局面がある一方で掲げたK P Iを上回る成果がでていることもあります。どうしてそれがうまくいったのか分析した結果を教えてくださいたいです。

(宮永委員)

関連して、総合計画や総合戦略の今までの実績を出していただかないと次につながらないのではないのでしょうか。人口2万人という目標について、ある程度達成可能な目標でなければ意味がないものになってしまうと思えます。そのためにも、第5次総合計画において、できたことできなかったことを洗い出し、説明していただいた方が議論が進むのではないのでしょうか。

(事務局)

膨大な資料となるため、第1回の審議会でご説明するのではなく、皆様に送付させていただき、お時間がある時に目を通していただいて確認をしていただくことを考えておりました。次回の審議会で簡単なお説明を申し上げ、新しい計画の素案をもって、皆様に諮問をさせていただきたいという流れになろうかと思えます。K P Iが達成できている部分についての分析ですが、スムーズに施策を進めることができた部分のK P Iはうまくいっていると思えます。逆に、予算の都合や、いろんな関係企業・団体と協力して推進する取組の調整がうまくいかなかった部分のK P Iは達成しきれなかったと思えます。現状として、多くの分野で目標値を達成することができておまして、予算を注入しながら進めてきた結果が出たと思えます。ただ、人口の減少に歯止めをかける部分については達成できておらず、打って出た施策が人口の減少を抑制することに結びつかないものだと痛感しております。個々のプロジェクトで目標は達成しているが、なぜ結びつかなかったのかを皆様にご指摘していただければと考えております。なぜ2万人という人口に固執するのかと言いますと、当別町のインフラは2万人をベースに作っているからであり、2万人を下回ることでインフラが滞ってしまい、ストレートに町民の方の生活に影響してしまうからです。そういった経過があります

が、各方面から次の総合計画でも2万人という目標を掲げるのかという意見をいただくことがあります。現在は1万6千人を割るところまできており、こういった現状を踏まえると、2万人にこだわるのではなく、現実的な目標に少しでも寄っていただけるような目標値にすべきかと痛感しているところであります。

(泉亭委員)

10年経った後に検証を行うことは難しいと思います。社会福祉協議会でも長期の計画を立てておりますが、最低でも1年に1度検証を行っております。新しい総合計画については1年か2年ほどの短期の中で検証を行った方が良いかと思えます。

(6) 新しい総合計画の策定に向けた考え方について

**資料1** ～長谷川課長説明

(7) 策定スケジュールについて

**資料2** ～長谷川課長説明

(宮永委員)

素案の作成について、全庁的に関わって議論を行い素案を作成しているのでしょうか。

(事務局)

本文については事務局で作成しておりますが、並行して第5次総合計画の実績や課題の調査を各部局より聴取し、まとめているところであります。

(宮永委員)

2万人を想定するのであれば、人口を増加させるためにはどうすればよいのかを全庁的に議論しなければいけないのではないのでしょうか。そこまでの議論を行っているのでしょうか。

(事務局)

総合戦略を策定した際には、十分に議論を行ったつもりではありますが、抜本的な解決策が出てこないというのが正直なところであります。人口を増加させるためにはどうすればよいのかという点については、町長が留意していることでもありますので、全庁的な議論や分析を行っております。ただ、我々の浅知恵だけでは足りない部分が多々あると思えますので、審議会の中でご指摘やアイデアをいただければと思います。

(宮永委員)

スケジュールが決めれているので、その通り進められてしまうことが心配です。

(黒澤会長)

審議会は出てきた案をしっかりと見ていくためにありますので、その役割をしっかりと果たしていきましょう。

(川村委員)

資料1では総合計画審議会と総合戦略推進委員会が並行して動くようになっておりますが、資料2によると総合戦略推進委員会は6月の開催後、総合計画が決定した3月に関わるようになっております。ということは、総合計画審議会が全て取り仕切っていくということでしょうか。

(事務局)

総合戦略推進委員会の委員が8名中7名、総合計画審議会に関わっていただいていることもあり、総合戦略推進委員会の開催をしなくても考え方が総合計画審議会に反映されると考えております。

(古城委員)

1点目として、第5次総合計画は実施主体が自治体を想定した行政計画となつていると思いますが、地方自治法の改正を経ての計画策定となることから、自治体が行うことの目標としての行政計画として位置付けていくのか、必ずしも行政のみならず、町全体の団体も関わるような公共性の高い公共計画とするのかを明確にする必要があると思うので、事務局のご意見をお伺いします。2点目は、成果物としてはどのような形を想定しているのか。また、町民の方にどのような周知方法を想定しているのかお伺いします。3点目は、長期的な視点に立った計画は重要なものだと思いますが、短期での検証が必要であると思います。しかし、調査費や人件費といった検証にかかるコストや労力を考えるとなかなか難しいと思われまふ。計画の射程をどう置くかという部分をしっかりと議論していきたいと思ひます。また、これから作る計画の分析をしっかりと行ひ、情報の蓄積をどう活用していくかという部分についての議論を行ってきたいと考えております。

(事務局)

基本的な方向性は行政のみならず、全町民の方が意識していただく部分であると捉えております。そういった中で、そのために具体的にどのような施策をするかという部分については、行政の部分であると思ひています。基本的な方向性を全町民の方に意識していただくためにも、わかりやすい表現で周知していきます。計画書だとなかなか開きにくいものになってしまうと思ひますので、A3、1枚見開きでわかりやすくできるものであれば示していきたいと思ひております。成果物としては、1冊の中に基本構想編と総合戦略編が入ることを想定しております。検証を行うことについては、総合計画や総合戦略は社会情勢の変化などに合わせて検証するだけではなく、見直しも必要であると思ひます。第5次総合計画については短期で検証を行うことができませんでしたが、今後はできる限りの検証や分析は必要だと思ひます。潤沢な予算はございませんが、必要な予算や人員は確保しなければいけないと思ひております。情報の蓄積については、都度検証や分析を行うことで今後につなげていくべきだと改めて感じております。

(守山委員)

総合計画は10年の計画であり、総合戦略は5年の計画となっておりますが、それを1つにしているのでしょうか。総合戦略編を別立てにし、前期・後期とした方が良いのではと思いますが、事務局の考えをお伺いします。

(事務局)

総合戦略を少なくとも5年後には見直すことから、総合計画の改訂版が5年後に必要なと考えております。その際には、社会情勢に合わせた総合計画の見直しも必要になるかと思いますが、庁舎内での改訂議論になるのか、審議会を設置するのかはその時の考え方によることとなりますが、そのようなイメージを持っております。

(川村委員)

なぜ10年の計画なのでしょう。総合戦略が5年の計画であるなら5年でまとめて良いと思いますし、もっと期間を短くして3年の計画でも良いのではないかと思います。なぜ10年の計画なのかという部分をしっかりと整理していただきたいです。

(後藤委員)

総合計画について、町民はもちろんのこと役場職員も意識しなければいけないと思います。総合計画を策定していく過程の中で役場職員にもアンケートを行えば、役場職員の意見を役立てることができると思いますし、なんらかの形で全職員が計画の策定に関りを持つことで、総合計画に対する意識付けができるのではないのでしょうか。

(宮永委員)

計画を実践するのが役場職員の仕事であることから、その意識を強く持っていたきたい。その意識が抜けてしまうと、ただ計画を策定しただけになってしまうと思います。都度検証や分析を行い、役場職員が同じ方向を向いて実践していくことが1番大切かと思います。

(黒澤会長)

計画を作ってそのままにするのではなく、きちんと検証していくシステムを計画の中に入れるべきだと思います。

(田口委員)

会議の際に質問をしても返答が後回しになることが多々あります。短い期間で10年の計画を立てることになりますので、審議会をスムーズに進めていくためにも、予想されるような質問の返答を準備したり、担当の職員が同席するなどの工夫をしていただきたいです。

(事務局)

事前に質問予定を確認させていただくようにし、担当部署に聞き取りや資料の準備をして臨みたいと思います。どうしても答えられなかったものについては、次回の審議会に持ち越すのではなく、メールで回答するなど早い対応をさせていただきます。

(川村委員)

審議案を早めに作成していただき事前配布していただければ、事前に質問事項をお知らせできるので、そういった努力もよろしくお願いします。

(泉委員)

質問だけではなく、確認したい資料をこちらから提示してもご用意いただけるのでしょうか。

(事務局)

個人情報等でお出しできないものもあるかと思いますが、お出しできるものについては積極的にご提示いたします。

(黒澤会長)

調査や審議をする場として、出せる範囲でお願いいたします。

(その他)

(8) 当別町第5次総合計画及び当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について

膨大な資料となることから、後日送付することとする。

(9) 次回の開催日程について

開催日程の調整票を後日提出することとする。

(以上)

【当日の様子】





